

火3クラス、水2クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化IVA(AB401)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
4年間の集大成として、正午の茶会を通し、茶会の基本的な流れを理解し、茶道におけるもてなしを探る。茶会の運営を通して、相手への心遣いや協調性、礼儀作法を学び、今後の社会生活に繋げる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶事の基本を理解し、役割について説明ができる。				茶会レポート	10%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	60%	
多様性理解力	茶事を運営することができる。				正午の茶事への参加	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
正午の茶事への参加は20%とし、茶事の準備や当日の取り組む姿勢などから評価する。授業態度については60%とし、点前の稽古や茶会の実施など、授業への積極的な参加から評価する。課題・レポートについては10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題・レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。茶会レポートは10%とし、正午の茶会終了後の感想や気づきから評価する。							
授業の概要							
各グループで茶会を成功させることを目標とする。茶会を開催するに当たっては、状況に応じて学内だけでなく学外(包括協定を結んでいる波佐見町など)の施設も活用する。また、点前については茶道文化研究所作成の動画も用いながら、唐物点前や続き点前の概要を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：桑田 忠親著『茶道の歴史』講談社(1979年) 指定図書：安部 直樹、嶋内 麻佐子、木村 勝彦『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』人間社会学部国際観光学科共同研究(2018年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶道文化IVは4年間の集大成でもある。茶道は点前のみが茶道ではない。その中から生まれてくる精神性が、茶の理念でもある。茶会では亭主と客とが協力しあってはじめて「一座建立」の世界を保つことができる。その考え方は一般社会においても同様である。茶道を通して「人と人」「人と物」の関係を学び、人間としての在るべき姿を見つけてほしい。 							

火3クラス、水2クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・唐物点前見本	唐物点前の見本を確認し、概要を理解する。 (嶋内)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習する。
2	・唐物点前稽古	唐物点前の流れについて確認する。 (嶋内)	唐物点前の特徴について 復習する。
3	・唐物点前稽古	唐物点前の流れについて確認する。 (嶋内)	唐物点前の特徴について 復習する。
4	・続き点前見本	続き点前の見本を確認し、概要を理解する。 (嶋内)	教科書 pp. 70~93 を読み、 予習・復習する。
5	・続き点前稽古	続き点前の流れについて確認する。 (嶋内)	教科書 pp. 70~93 を読み、 予習・復習する。
6	・炭を切る① ・炭点前(風炉)復習①	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前(風炉)の復習。 (嶋内)	炭点前の道具の扱い方を 予習・復習する。
7	・炭を切る② ・炭点前(風炉)②	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前(風炉)の復習。 (嶋内)	炭点前の道具の扱い方を 予習・復習する。
8	・茶会の役割決め ・班別練習①	茶会での役割を決める。 正午の茶会に向け、班別に練習を行う。 (嶋内)	指定図書『大学の教養教育 における茶道文化の意義 に関する研究』 pp. 30~70 を読み、予習・復習する。
9	・班別練習②	正午の茶会に向け、班別に練習を行う。 (嶋内)	指定図書『大学の教養教育 における茶道文化の意義 に関する研究』 pp. 30~70 を読み、予習・復習する。
10	・班別練習③	正午の茶会に向け、班別に練習を行う。 (嶋内)	指定図書『大学の教養教育 における茶道文化の意義 に関する研究』 pp. 30~70 を読み、予習・復習する。
11	・茶会の準備①	客迎いの準備を学ぶ。 (嶋内)	正午の茶会の成功を目指し、 班別練習に参加する。
12	・茶会の準備②	客迎いの準備を学ぶ。 (嶋内)	正午の茶会の成功を目指し、 班別練習に参加する。
13	・茶会の準備③	客迎いの準備を学ぶ。 (嶋内)	正午の茶会の成功を目指し、 班別練習に参加する。
14	・正午の茶会(本番)	客を招き、正午の茶会を実施する。 (嶋内)	各役割の動きについて予 習・復習をする。
15	・総復習	総復習として、ミニ茶会形式で実践を行う。 (嶋内)	各役割(亭主・半東・接待・ 水屋・客)の動きについて 予習・復習をする。